

2019 年度 修士論文

中国野球の現状と発展に関する研究

A study on Situation and Development of Baseball in China

早稲田大学大学院スポーツ科学研究科

スポーツ科学専攻 スポーツビジネス研究領域

5018A051-1

陳 博偉

CHEN BOWEI

研究指導教員:平田 竹男 教授

目次

第 1 章	序論	1
第 1 節	背景	1
第 1 項	中国のスポーツ産業	1
第 2 項	中国の野球史	4
第 1 目	中国人留学生の野球	4
第 2 目	中国国内での初期の野球	5
第 3 目	野球の再開	6
第 3 項	中国の野球人口	6
第 4 項	中国代表チームの成績	8
第 2 節	先行研究	9
第 3 節	研究目的	9
第 2 章	研究方法	10
第 3 章	研究結果	11
第 1 節	中国国内の野球イベント	11
第 2 節	中国野球リーグ	12
第 3 節	大学野球	17
第 1 項	大学野球大会	17
第 2 項	中国大学野球アスリートのセレクション	21
第 4 節	ネット中継	24
第 5 節	MLB	27
第 1 項	MLB の中国事業	27
第 2 項	MLB DC (MLB Development Center)	28
第 4 章	考察	31
第 1 節	中国野球界の発展	31
第 1 項	イベント	32

第 2 項 リーグ	32
第 3 項 大学野球	33
第 4 項 ネット配信	33
第 5 項 MLB	34
第 2 節 中国野球界のトリプルミッション	34
第 1 項 普及	34
第 2 項 強化	37
第 3 項 資金	39
第 4 項 理念	40
第 5 章 結論	43
謝辞	44
参考文献	45

図 1-1 中国スポーツ産業規模.....	1
図 1-2 2100 万中国野球人口の構成	6
図 1-3 2019 年中国野球人口の分布	7
図 1-4 2012 年~2018 年野球男子世界ランキングの推移	8
図 3-1 中国野球リーグの第一段階	13
図 3-2 中国野球リーグの第二段階	14
図 3-3 中国野球リーグの第三段階	15
図 3-4 中国野球リーグの第四段階	15
図 3-5 2004—2015 全国大学野球大会に参加するチームの数.....	17
図 3-6 2018 年全国大学野球チーム分布	18
図 3-7 2018 年各地方の学校チーム数及び割合.....	19
図 3-8 2019 年中国野球ファンの情報源	24
図 3-9 ネット中継視聴者指数 (2019 年 7 月 13 日~7 月 18 日)	25
図 3-10 ネット中継視聴者指数 (2017 年 6 月 23 日~7 月 2 日)	25
図 3-11 Lun Zhao 選手のスカウティングレポート	30
図 4-1 野球をプレーできない要因	36
図 4-2 2016 年~2019 年野球場/練習場の数.....	37

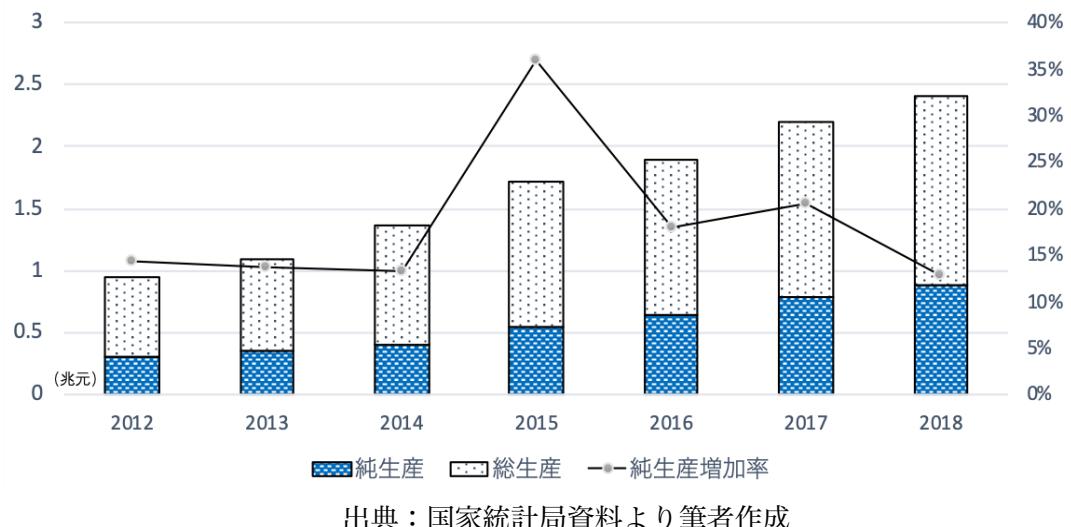
表 1-1 「中国野球産業中長期計画」の説明.....	3
表 3-1 2020 年開催予定の中国国内野球イベント	11
表 3-2 野球リーグに加入するチームのある都市情報	13
表 3-3 2017 年～2018 年「海峡两岸学生棒球聯賽」優勝チーム	20
表 3-4 大学野球アスリート専門試験採点基準.....	22
表 3-5 大学野球アスリート専門試験ベースランニング及び遠投の採点基準	22
表 3-6 大学野球アスリート専門試験実戦の評価基準	23
表 3-7 MLB の中国事業.....	27
表 3-8 MLB チームと契約した MLB DC 卒業生.....	30
表 4-1 中国野球界の今後の発展に寄与すると考えられる主な取り組み	31
表 4-2 2009 年に開催したメイン野球イベント	32
表 4-3 アメリカ独立リーグに参加する中国人選手の成績（投手）	39
表 4-4 アメリカ独立リーグに参加する中国人選手の成績（野手）	39

第1章 序論

第1節 背景

第1項 中国のスポーツ産業

2008年、中国のスポーツ歴史に刻んでいる北京五輪が世界中の注目を集めた。それをきっかけとし国民の健康意識が高まり、スポーツの参加率も増加した。2008年のスポーツ産業の純生産は1265億元（約1.8兆円）に達し、同年GDPの0.52%を占め、10年前（1998年）の183億元（約2864億円）に比べ1082億元（約1.7兆円）増加し、スポーツ産業純生産のうち、スポーツ用品産業が8割に達している。更に2008年以後の10年間には、競技スポーツや民間スポーツをはじめとする伝統的なスポーツ産業だけではなく、スポーツ観光やスポーツ振興くじなどの関連産業の市場規模が拡大した。



出典：国家統計局資料より筆者作成

図1-1 中国スポーツ産業規模

とは言え、中国のスポーツ産業は規模も市場シェアも先進国とは差がある。日本、欧洲諸国のスポーツ産業が GDP の約 2%、更にアメリカは 3%近く占めているが、2014 年の中国スポーツ産業総生産はわずか GDP の 0.64%¹だった。そこで国務院は「スポーツ産業の加速及びスポーツ消費の促進に関する意見（国务院关于加快发展体育产业促进体育消费的若干意见）」を公表した。この意見ではスポーツ事業が国民健康の向上、国民の多様なスポーツ活動の充実、国民生活の改善、就職率の増加やソフトパワーの強化などに不可欠なことだと述べられていた。それをいつそう発展させるためには、1) プロ化改革の深化 2) 社会資源の利用 3) スポーツの革新 4) 多産業の融合 5) スポーツ施設の建築 6) スポーツ実施率の向上 7) 政策と組織の改善を提言した。

そして 2025 年には産業が合理的に分配され、機能完備、項目豊富なスポーツエコシステムを立て、スポーツ産業総生産が 5 兆元（約 78 兆円）まで拡大するという目標が掲げられた。

この「意見」に刺激され、中国スポーツ産業規模は継続的に拡大した。結果、2017 年にスポーツ総生産は 2.1 兆元（約 33 兆円）に超え、増加率は 20%以上で、国民総生産の増加率を 2 倍以上上回った。この増加率が維持されるならば、スポーツ産業純生産は 2020 年に 1 兆元（約 17 兆円）を超えると予想される。

このように拡大している中国のスポーツ産業の中で、中国野球協会は 2016 年に「中国野球産業中長期計画」を発表した。2016 年の時点で、全国にはおよそ 50 球場が存在し、登録選手は 1000 人を超え、アマチュアでは 2000 チームがあると公表されている。さらに野球産業を発展するには、2025 年まで 200 以上の野球場の整備、プロ・アマチュアチームを 5000 以上に増加、野球と野球関連産業の市場規模を 500 億元（約 7827 億円）に拡大するという目標が掲げられた。それを実現するため、プロリーグ、学生リーグ、アマチュア、クラブ管理、専門人材育成、施設の建設、海峡两岸交流、国際交流、

¹ http://www.gov.cn/zhengce/2019-09/03/content_5426712.htm (閲覧日：2020 年 1 月 2 日)

関連ビジネス、掲示板の構築、標準設定・ビッグデータ、融資ベースの確保など 12 項目が重要視され、それぞれの項目の内容が表 1-1 に示したように

表 1-1 「中国野球産業中長期計画」の説明

項目	内容
プロリーグ	リーグ規程の制定、ブランド力の向上
学生リーグ	スポーツと教育の融合、青少年アスリートの育成
アマチュアリーグ	地域野球の活性化、競技レベルの向上
クラブ管理	運営力の向上、客層の拡大
専門人材育成	アスリート・審判・コーチ・栄養士など、育成の強化
施設の建設	総合体育館・訓練基地・地域施設・小型投、打施設の建設
海峡両岸交流	イベント・人材・技術・運営にめぐる多形式の交流
国際交流	海外の経営理念・発展モデル・人材の招致
関連ビジネス	命名権・スポンサー・ブランド力の開発
掲示板の構築	情報の掲載
標準設定・ビッグデータ	野球産業の標準化、市場の把握
融資ベースの確保	資金面のサポート

出典：「中国野球産業中長期計画」より筆者作成

第2項 中国の野球史

第1目 中国人留学生の野球

1840 年アヘン戦争の後、清国がイギリスやアメリカと不平等条約を結び、国が分割された。封建制の維持および革命の鎮圧と外国侵略に抵抗するため、一部の官僚が洋務派を結成し、1860 年代から西洋の近代思想と技術を学ぶ洋務運動が行われた。その中、洋務派の軍隊や学校に動くスポーツは、中国早期の近代スポーツである。野球もこの時期に中国へ伝来された。

1873 年、30 人の少年がアメリカに留学生として派遣され、その中には「中国鉄道の父」と呼ばれる詹天佑氏がいた。彼らはアメリカに留学している間、野球に大きな興味を持ち、「中華野球チーム（中華棒球隊）」を創立した。当時のアメリカで野球は小、中学校でも流行っており、詹天佑らは周囲のアメリカ人学生と一緒にプレーすることができた。しかし彼らは清国の伝統的服を着て、辯髪を垂らし野球をやるには不便だと感じ、自ら長い髪を切った。その行為は清政府の不満を招き、1881 年、清政府は予定より早めに留学生全員へ帰国を命じた。学習を続けないにも関わらず、留学生一行は帰国しながら、あちこちの野球チームと対戦した。サンフランシスコを通過する間、地元の人は彼らが中国人と知り、軽蔑な態度で試合を行った。しかし、留学生チームがうまい守備と猛攻撃で地元の人を驚かせた。中国系アメリカ人の観衆たちも試合の勝利に興奮し、涙を流した。同じ試合で、もう一人の留学生、帰国後外務官僚を務めた梁敦彦氏が沢山の打点を上げ、勝利に貢献した。梁は野球の才能があり、留学中現地学校チームの重要な一員としてプレーした。それに従い、普遍的に軽視されている中国の留学生の評判が高まった。そしてこの当時の高い評価により、彼は外務官僚在任中アメリカから好印象を受け、庚子賠款の返還、清華大学の創立などに貢献した。

アメリカへの留学生ではなく、日本への留学生たちも野球に熱情をもっている²。中国野球の父と呼ばれる梁扶初氏は少年時代に来日し、早々野球に触れていた。現地の学

² 『中国近代体育史簡編』人民体育出版社、1981、pp59

校チームで野球をやる梁が何度も華人チームを遭遇し、レベルの低さを嘆き自ら「中華野球チーム」を創立させた。そのチームが 1922 年と 1930 年に横浜市アマチュアチャンピオンになり、市民を驚かせた。

第2目 中国国内での初期の野球

中国国内の野球活動は 1895 年、北京匯文書院と上海センジョンズ学院という 2 つの教会学校から始まった。この 2 校とも海外から帰国する華人の指導の下で活動していた。次にアメリカキリスト協会が創立した協和書院が、野球を含む様々なスポーツ大会を開催した。初の野球試合を記録したのは 1905 年 6 月 2 日、上海センジョンズ学院と青年会を対戦相手として上海青年会体育場で行われた試合だった。その時期は清国の末期で、孫中山らの資産階級革命者が秘めやかに計画しており、革命軍の体を鍛えるために多くのスポーツクラブを作った。この頃創立した揚子江野球隊は野球技術を活用し、手榴弾の投げ練習をしていた。野球の練習だけではなく、革命に関する打ち合わせもよく行われたという噂がある。

その後清国の滅亡につれ、西洋との交流が増加し、近代スポーツが民間に広まった。野球も近代スポーツの先頭に立ち、普及していった。1913 年には匯文、協和書院そして北京清華が野球対抗戦を始め、各大学の学校誌にもその対抗戦の記事が載っていた。特に清華大学では野球やテニスなどを英語の次に重要視していた。

華東地方では 1926 年に上海野球連合会が成立し、野球トーナメントを主催した。上海センジョンズ学院、中華青年体育会、済江大学、上海野球隊そして外国チームの米国公学、西洋公学と日本同文書院が参加した。結果、日本同文書院が上海野球隊を破り、優勝した。その大会の開催により、華東地方に野球が広まっていった。

とはいって、中国内部の混乱や外国資本主義の干渉により、国民がスポーツをする余裕はなかった。結果、文化大革命により、資本主義の娯楽を象徴する野球は落日を迎えた。

第3目 野球の再開

文化大革命の 10 年間、スポーツは無産階級政治の道具となり、資本主義思想として批判された。体质向上という目標だけは前より変わらなかつたが、スポーツ教育を含め、スポーツ全体が階級闘争に主導され、そこまで発展した中国の近代スポーツは巨大な影響を受け、多くのスポーツ組織は消え去つた。

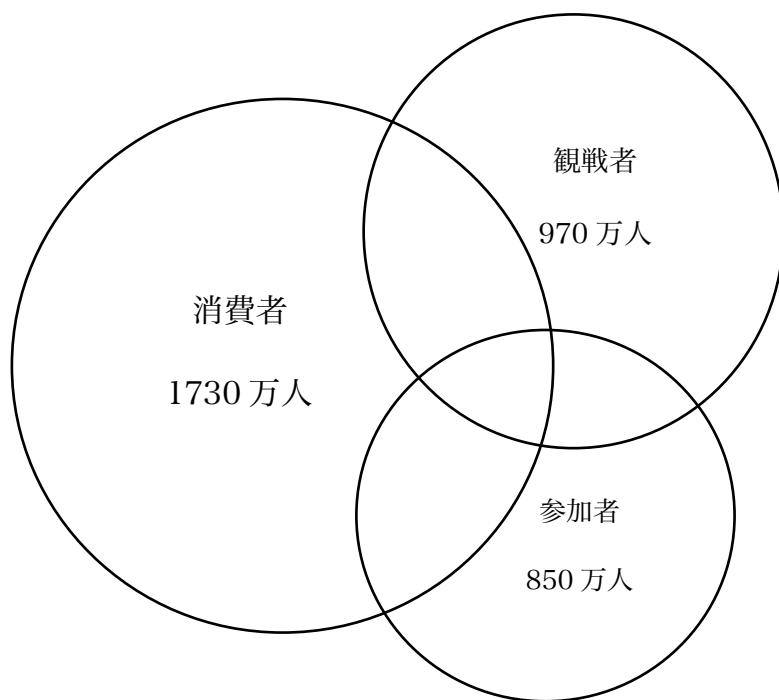
1970 年代後半、文化大革命の終わりにつれ、野球は再開を迎えた。清华大学をはじめ、多くの大学が野球活動を再スタートしたが、以前の盛況には戻らなかつた。

第3項 中国の野球人口

MLB が 2019 年に行った調査によると、中国には 2100 万人の野球人口があり、そのうち、「消費者」という年に 1 回以上野球に関する商品を購入したあるいは年に 1 回以上野球ゲームをプレーした人は 1730 万人であり、野球試合を見る「観戦者」と実際に野球をする「参加者」はそれぞれ 970 万人、850 万人である。

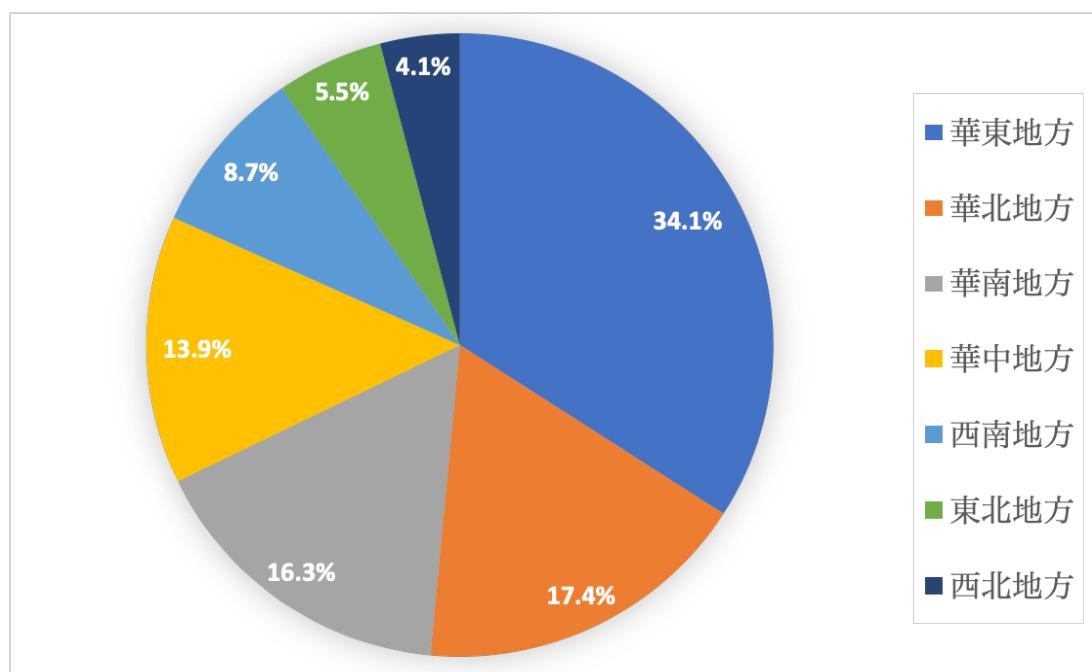
また、一線都市から二線都市における 20~40 歳の野球人口に関する調査によると、男性が 55% を占めており、86% の野球人口の最終学歴は大学およびそれ以上、家庭収入に関しては 82% 以上が 8000 元（約 13 万円）を超え、更に 12000 元（約 19 万円）を超えている割合は 68% である³。

³ <http://baseball.sport.org.cn/xxl/2019/1031/299566.html> (閲覧日: 2020 年 1 月 2 日)



出典：<http://baseball.sport.org.cn/xxl/2019/1031/299566.html> より筆者作成

図 1-2 2100 万中国野球人口の構成

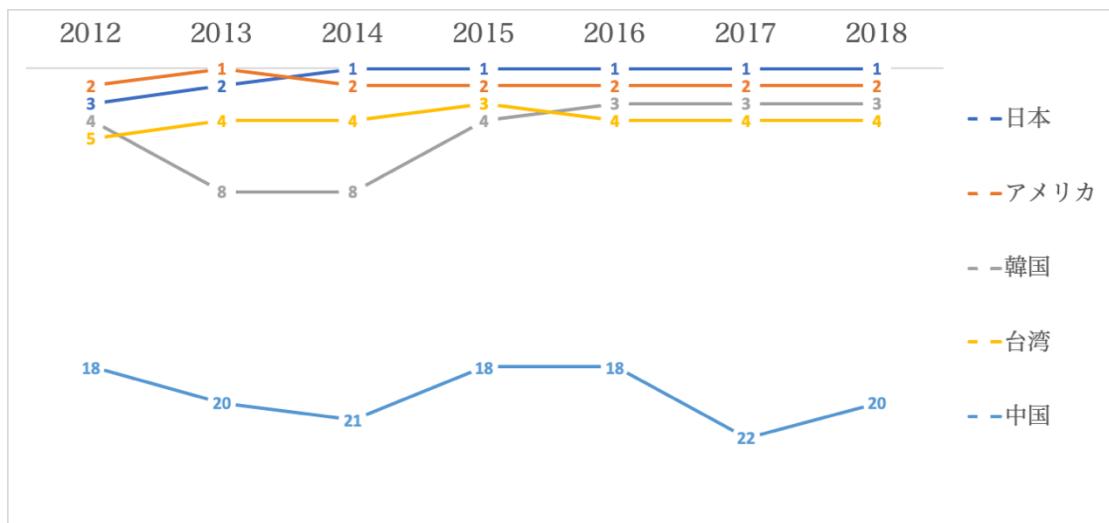


出典：<http://baseball.sport.org.cn/xxl/2019/1031/299566.html> より筆者作成

図 1-3 2019 年中国野球人口の分布

2019年野球人口の分布から見ると、最も多いのは華東地方であり、34.1%の野球人口がそこに在住している。続いては華北地方の17.4%と華南地方の16.3%である。そのうち、スポーツ施設が多く設置され、住民の健康意識が高い、そして野球クラブが多く存在している中国の一線都市と新一線都市の割合が高いと見られている。

第4項　中国代表チームの成績



出典：<https://rankings.wbsc.org/zh/list/baseball/men> より筆者作成

図 1-4 2012 年~2018 年野球男子世界ランキングの推移

中国の野球男子代表チームの WBSC の最新ランキングは 20 位であり、長年低迷している。国際大会で好成績を収められておらず、中国代表チームが 2006 年の第 1 回目の WBC から 4 回連続参加したものの、合計 12 試合で僅か 2 勝だった。WBSC プレミア 12 には選出されたこともなかった。一方、日本、韓国、台湾では 2015 年から世界ランキングのトップ 4 を占めている。

第2節 先行研究

石原（2010）は2008年に北京五輪の開催により、中国での野球への注目度が高まったと述べた。それが野球人気向上の起爆剤となる可能性があるが、必ずしも国内リーグの人気に繋がっていないという疑問が示された。また、野球の世界的普及の足かせになっている初期費用の高さゆえ、経済成長の裏で国民の間の貧富差が深刻化している当時の中国においては、野球が大衆に広がっていくとは単純には考えにくいとしている。

その結果、CBLならびに中国におけるスポーツ産業を発展させるために重要なのは、観戦料を払ってスポーツを見に行くという、これまで中国にはあまり見られなかつた娯楽モデルを示した五輪直後において、チケット、放映権の販売というプロスポーツの基本となるビジネスモデルを構築し、政府からの支援に頼る「官制プロ野球」から脱却することだと指摘している⁴。

しかしながら、2009年のMLBとの提携や2016年の「スポーツ産業の加速及びスポーツ消費の促進に関する意見（国务院关于加快发展体育产业促进体育消费的若干意见）」により中国野球が発展していることは考えられるが、先行研究からどのように発展しているか、現状が明らかになっていない。

第3節 研究目的

本研究は近年、中国における野球の環境を明らかにし、中国野球界の取組状況や今後の発展に関する示唆を得ることを目的とする。

⁴ 石原豊一「中国プロ野球の可能性—北京五輪会場の観衆への調査から」『スポーツ産業学研究』、Vol.20、No1（2010）、pp81~90

第2章 研究方法

文献調査

中国野球リーグ、大学野球、ネット中継、MLB Development Centers の変遷と現状を把握し、中国における野球産業の拡大に貢献することを検討する。そのため、下記の文献から調査を行う。

中国野球協会ホームページ <http://baseball.sport.org.cn/>

中国野球リーグに関するニュース記事

中国大学生ベースボール・ソフトボール協会 SNS

国家統計局ホームページ <http://wap.stats.gov.cn/>

テンセント体育公式サイト <https://kbs.sports.qq.com/#hot>

MiLB ホームページ <https://www.milb.com/>

第3章 研究結果

第1節 中国国内の野球イベント

表3-1 2020年開催予定の中国国内野球イベント

イベント	開催期間
全国青少年U10 チャンピオンシップ	2月1日～2月10日
全国青少年U12 チャンピオンシップ	2月1日～2月10日
全国青少年U15 チャンピオンシップ	2月1日～2月10日
全国青少年U18 チャンピオンシップ	2月1日～2月10日
全国青年野球トーナメント	3月19日～3月29日
全国野球チャンピオンシップ	4月27日～5月4日
全国オープンファイナル	5月1日～5月5日
中国プロリーグ	6月5日～9月19日
全国青少年U9 トーナメント	7月18日～7月28日
全国青少年U18 トーナメント	7月18日～7月28日
全国大学生トーナメントファイナル	7月20日～8月20日
全国青少年U10 トーナメント	7月31日～8月8日
全国青少年U12 トーナメント	7月31日～8月8日
全国青少年U15 トーナメント	8月13日～8月22日
アジア大学生トーナメント	9月下旬
全国青少年オープンファイナルU9	10月3日～10月6日
全国青少年オープンファイナルU10	10月3日～10月6日
全国青少年オープンファイナルU12	10月3日～10月6日
全国青少年オープンファイナルU15	10月3日～10月6日
全国野球トーナメント	10月22日～11月1日
全国大学生チャンピオンシップ	12月1日～12月8日

出典：中国野球協会ホームページより筆者作成

表3-1によると、1年を通して、様々な野球大会が開催されている。特に青少年大会が多く見られている。

第2節 中国野球リーグ

競技の発展につれ、プロリーグの結成は必然の流れであり、そしてさらなる市場を拡大させるためには重要な一環だと見られる。中国がスポーツのプロ化改革を始めたのは1990年代だった。1993年、プロサッカーリーグをはじめ、バスケットボール、テニスやバレーボールなどスポーツのプロ化が広がっている。野球も1996年からプロリーグの立ち上げを練り始めた。2001年、北京五輪の開催が決まり、翌年に中国野球リーグがようやく発足された。

しかし、サッカーやバスケットボールと違い、球場施設と野球市場の不足により当時の野球リーグは「プロ」という名をつけられなかった。故に目指すのが⁵

1)ゲームレベルの向上、選手とコーチの強化

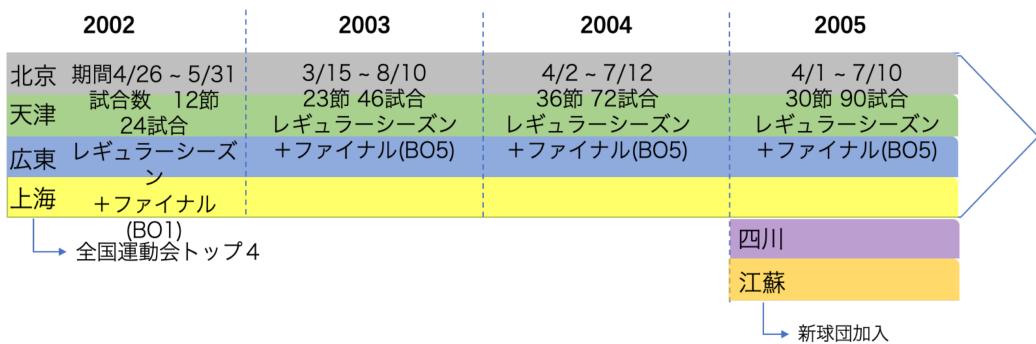
2)試合の規範化

3)野球人口の増加と資金の招致

の三つだと考えられた。

参加するチームは2001年開催される第9回全国運動会の上位4チームだった。

⁵ <http://sports.sina.com.cn/o/2002-04-17/17262542.shtml>



出典：中国野球協会ホームページより筆者作成

図 3-1 中国野球リーグの第一段階

表 3-2 野球リーグに加入するチームのある都市情報

都市名	人口/万人 (順位)	一人当たり GDP/元 (順位)	高校数 (順位)
北京市	1961 (26)	25523(2)	67 (3)
天津市	1294 (27)	20154(3)	27 (22)
広東省	10430 (1)	13730(5)	64 (5)
上海市	2302 (24)	37382 (1)	38 (16)
四川省	8042 (4)	5250(24)	51 (11)
江蘇省	7866 (5)	12922(6)	77 (1)

出典：国家統計局より筆者作成

リーグ参加チームが拠点とする都市の人口⁶、一人当たり GDP⁷、高校数⁸と全国順位から見ると、北京市、広東省、上海市、四川省、江蘇省は人口や一人当たり GDP、または高校数が上位の省市であり、資金や野球人口の獲得には有利だと見られる。

2002 年から 3 年間、各チームの年間試合数は 12 試合から 36 試合に増加し、試合期間も伴って延長された。

⁶ 第六回国勢調査、2010

⁷ リーグ加入当時の一人当たり GDP、国家統計局 <http://www.stats.gov.cn/tjsj/ndsj/>

⁸ 国家統計局 <http://www.stats.gov.cn/tjsj/ndsj/>

2006	2007	2008	2009
4/14 ~ 7/2 21節 63試合 2リーグ制 レギュラーシーズン +セミ (BO5) +ファイナル(BO5)	4/13 ~ 7/1 21節 63試合 2リーグ制 レギュラーシーズン +セミ (BO5) +ファイナル(BO5)	4/11~ 5/11、9/5~10/11 21節 63試合 2リーグ制 レギュラーシーズン +セミ (BO5) +ファイナル(BO5)	

2リーグ制が導入
中国代表チームが2008オリンピックに向けて集中練習を行うため、シーズン短縮

出典：中国野球協会ホームページより筆者作成

図 3-2 中国野球リーグの第二段階

2005 年に四川と江蘇の 2 チームが新規加入し、リーグは 6 チームの体制に変化した。

2006 年から、1 リーグ制から 2 リーグ制に変化し、試合数は年間 63 試合に定着した。

シーズンが 2005 年に比べて短縮されたのは、中国代表チームの選手が自国で五輪初出場のために合宿を行っていたためだと見られる。

一方、国家代表チームの若い選手がアメリカに集まり、マイナーリーグに参戦し、2012 年ロンドン五輪から野球が排除されると知った上に北京五輪にて好成績を期待されている。

国家代表選手が欠場した野球リーグは 2008 年北京五輪の後も継続されたが、その後、オリンピック項目から離脱した野球の中国における普及は厳しいと見られ、スポンサーが撤退した。

しかし、スポンサーの撤退にも関わらず、2009 年、中国野球リーグは更に 1 チームを加えた 7 チーム 1 リーグ制で 2011 年まで 3 年連続で開催された。2011 年には試合数が年間 126 試合に伸びている。

	2009	2010	2011	2012-2013
北京	5/15 ~ 6/13	7/12 ~ 8/29	5/6 ~ 9/25	
天津	10節 30試合	18節 63試合	42節 126試合	
広東	1リーグ制	1リーグ制	1リーグ制	
上海	レギュラーシーズン +トーナメントファイナル	レギュラーシーズン +ファイナル(BO3)	レギュラーシーズン +ファイナル (BO3)	
四川				
江蘇				中止
河南	新加入			

→ 再び1リーグ制
スポンサーが撤退

出典：中国野球協会ホームページより筆者作成

図 3-3 中国野球リーグの第三段階

	2014	2015	2016	2017-
北京	10/18 ~ 11/2 12試合	6/6 ~ 8/8 二部制合計60試合	5/27 ~ 9/4 30節 107試合	
天津	レギュラーシーズン +ファイナル (BO3)	レギュラーシーズン +ファイナル (BO3)	二部制 レギュラーシーズン +ファイナル (BO5)	
広東				中止
江蘇				
上海				
四川				
2部	4チーム			

→ スポンサー加入

→ 二部制導入

→ 国家代表チーム
アメリカ遠征

出典：中国野球協会ホームページより筆者作成

図 3-4 中国野球リーグの第四段階

リーグ運営のためにはスポンサーの存在は不可欠である。特に野球の産業化が未熟な

中国では各チームの運営資金をほぼリーグ側が分配しており、スポンサーの撤退により、
2012年から2013年のリーグ開催は中止と判断された。

再開したのは2014年、恒達聯合体育がリーグスポンサーとなり、リーグの運営や野球普及の事業を開始したこと、2年間中止されていた中国野球リーグが再開された。
最初の1年目は歴史のある強豪チーム北京と天津、華南地域強者の広東、そしてメジャーリーグとの連携を深めた新鋭チーム江蘇の4チームで展開された。

翌年、リーグは拡張し、2部リーグが導入され、1部リーグに新参する2チームを加え、歴代最多の10球団で公式戦を行った。年間試合数は相応に60試合に伸びた。なお、次のシーズンはチーム数が変化しないまま107試合に増加した。ビジネス事業においては韓国野球リーグとの契約を結び、交流試合の開催やチーム間の人材の交流が実施されている。

しかし、2017年には、WBCの開催や野球国家代表がアメリカに遠征するため、野球リーグが再び中止となった。それで中国野球リーグ（China Baseball League）に終止符を打った。

中国の野球リーグはそのまま幕を下ろすと思いきや、生まれ変わるのは2019年冒頭、中国野球協会が中国プロ野球リーグ（China National Baseball League）の開催を発表し、中国野球リーグのプロ化改革もそれと共に始まっている。

中国野球協会主席陳旭氏がプロ化改革の中国野球リーグに対し、野球と疎遠である中国にしても野球リーグを育てる環境が欠落しているではなく、国内の野球人口、特に学校野球の発展が野球全般の発展に助力している。また、リーグ運営管理は今回のプロ化改革に繋がっている。それを商業化するのは重要であると指摘された。それ以上、競技レベルの高さも不可欠であり、積極的に海外トップアスリートを招致する仕組みを作るべきである。2度の中止を前例とし、ブランド作り、収益の安定化、スポンサーの支援、法律の整備、適切な運営そして文化作りは今回の改革の鍵となるだと説明された⁹。

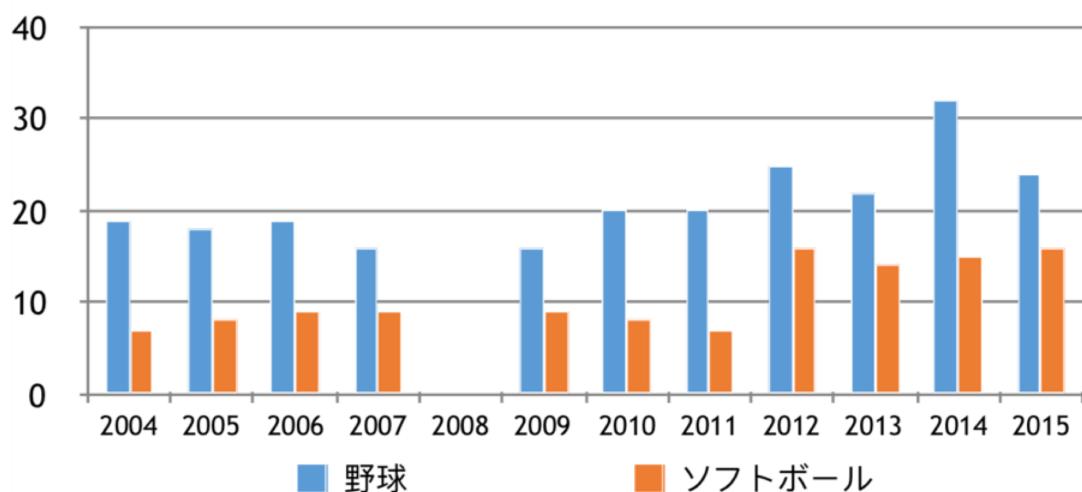
⁹ <http://baseball.sport.org.cn/xxl/2019/0807/288487.html>

第3節 大学野球

第1項 大学野球大会

中国における野球の原点は帰国する留学生野球チーム、初めての試合は大学生同士の試合、一度消滅した後の復活も大学から始めた。大学野球は野球の発展には大きく貢献したと見られる。

中国大学生体育協会の傘下にある中国大学生野球・ソフトボール協会は 2004 年創立した。同年に中国大学生体育協会、中国野球協会協同開催する大学野球大会が発足し、各地方大会の優勝者がファイナルの全国大会に参加できるとした。

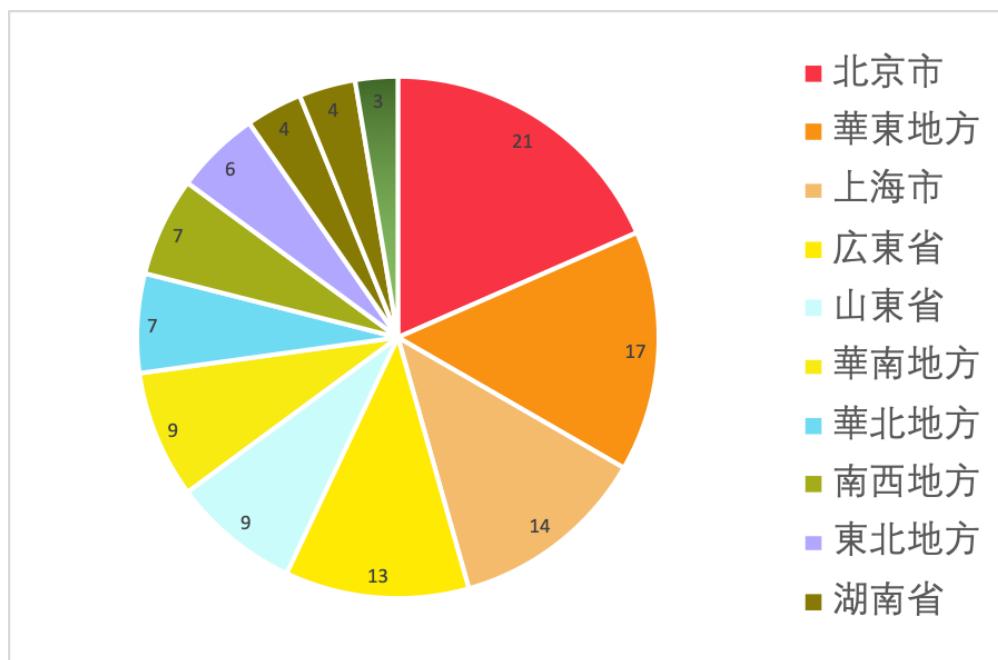


出典：各年度の記事 <http://baseball.sport.org.cn/> より筆者作成

図 3-5 2004—2015 全国大学野球大会に参加するチームの数

各地方の優勝チームしか全国大会に参加できないため、参加チーム数の大幅な変化、いわゆる増加の傾向は見られなかった¹⁰。近年では野球、ソフトボール合計40近くのチームに維持する。2019年には中国体育総局第一組のスポーツエンターテインメント特色鎮試験項目（体育休閑特色小鎮、2017年公表）に広東省中山市が選ばれ、16日間に清華大学など合計43のチームが「パンダ記念野球場」に次々と登場した。

また、全国地方分布（図3-6）から見ていくと、43チームに止まらず、2018年には110ヶ所以上¹¹の大学が野球チームを保有していた。北京市は、21大学がチームを保有し、各地方より最も多くチームが存在している地域である。次に、華東地方、上海市、広東省の3つの地域は合計10チームを越えた。地理的に見ると、多数の大学チームが北京市と東南海岸に分布されたと分かった。



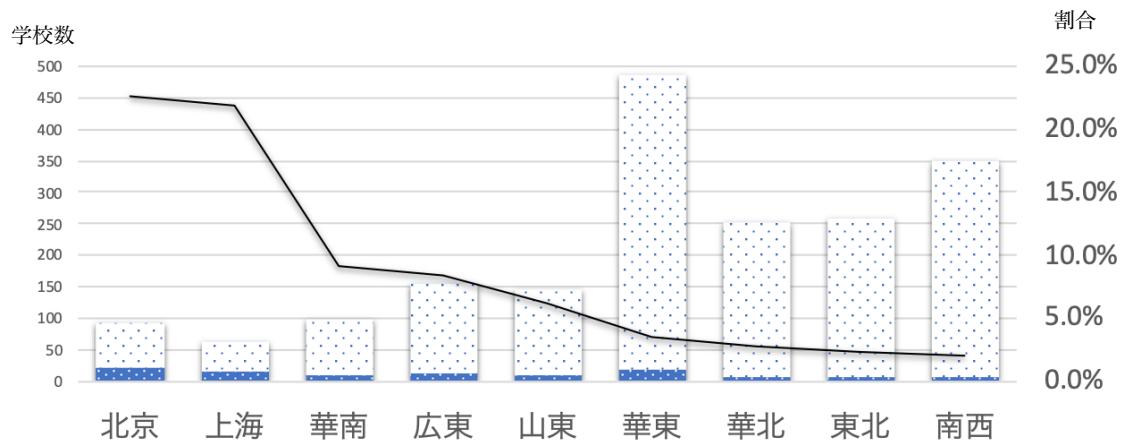
出典：<http://www.baseball.net.cn/portal.php?mod=view&aid=6169>

より筆者作成

図3-6 2018年全国大学野球チーム分布

¹⁰ 全国大学野球大会は2008年に一度中止

¹¹ <http://www.baseball.net.cn/portal.php?mod=view&aid=6169>



出典： <http://www.baseball.net.cn/portal.php?mod=view&aid=6169> より筆者作成

図 3-7 2018 年各地方の学校チーム数及び割合

しかし、地方によって、大学にチームを保有している数が異なり、割合の差がかなり大きいと見られる。例えば、北京市の割合が 22.6%、上海市の割合が 21.8% の大学が野球チームを保有している一方、その他の地方のチームの割合がかなり低い。華南地方、廣東省は北京市に続いて 10%以上の割合で 3 位から 4 位を占めている。一方、チーム数が 2 位となった華東地方（江蘇省、安徽省、浙江省、福建省）は学校が割と多いため、野球チームのある大学の割合は山東省に続き、6 位である。そのほか、5%以上の地域は見当たらなかった。

もう一つ大学生を主体に開催される大会は 2017 発足した中台学生野球交流戦（海峡两岸学生棒球聯賽）である。中台学生同士の学生生活やスポーツ交流を深めるため、中国国务院台湾事務弁公室交流局認証、海峡两岸野球交流合作委員会が主催し、数多くの野球チームを毎年集結した。大会は 3 つのステージがあり、

- i.一次予選 各地で行われ、上位チームが ii.に突破
- ii.二次予選 北京と台湾の 2 段階で行われ、上位チームが iii.に突破
- iii.ファイナル 深圳で行われ、優勝者を決める

大陸では台湾のような野球が流行っているとは言えないにも関わらず、レベル別の優勝者の数から見ると、学生野球は台湾に負けない競技力が付いている。（表 3-3）

表 3-3 2017 年～2018 年「海峡两岸学生棒球聯賽」優勝チーム

年分	開催期間 (ファイナル)	チーム 数	開催 地	レベル 分け	優勝チーム
					大学甲 北方工業大学（大陸）
2017	12/1~12/6	32	深圳	大学乙	台湾大学（台湾）
				青年	新竹成徳高校（台湾）
				青少年	桃園新明中学校（台湾）
				少年	北京大成学校（大陸）
				大学甲	北方工業大学（大陸）
				大学乙	台湾大学（台湾）
2018	12/1~12/8	42	深圳	U18	台東大学附属体育高級中学校（台湾）
				U15	北京大成学校（大陸）
				U12	無錫梅村実驗小学校（大陸）
				U10	桃園中平小学校（台湾）

出典：http://www.sohu.com/a/211096727_727384 より筆者作成

第2項　中国大学野球アスリートのセレクション

学校野球の発展及び大学野球競技力の強化を目標とし、中国教育部は大学野球アスリートの特別選考を取り込んでいる。こうした入学する大学アスリートは在学中、学業を完成しなければならないであり、スポーツ活動は学業の次の 2 番目であると教育部が指摘した。

2018 年、学生野球アスリートを募集する大学は廈門大学をはじめ 6 大学であり、野球トレーニングスペシャリスト学部を設置した大学は北京体育大学をはじめ 9 大学である。

大学野球アスリートのセレクションに関しては、全国統一試験または各学校の入学試験と野球専門試験の 2 部分に構成されている。全国統一試験または各学校の入学試験は一般科目から出題され、全ての受験生が受ける試験であり、大学野球アスリートに対しては合格点数が一般受験生より抑えられている。野球専門試験は 2018 年から全国統一になった。採点基準は表 3-4 に示し、ベースランニング 15 点、遠投 15 点、打撃 15 点、内野守備 15 点と実戦 40 点合計 100 点である。そのうち、ベースランニングと遠投の採点基準は表 3-5 に示す。打撃に対してはピッチャーから投げられた時速 100km/h のストレートを打ち、当たったら 1.5 点を獲得し、10 球で合計 15 点である。内野守備に対してはショットポジションに構え、守備範囲内のボールを受け、捕球ミス 1 回マイナス 0.75 点、送球ミス 1 回マイナス 0.75 点、10 球合計 15 点である。実践に対しては技術動作の正しさと戦術の熟練度から受験生に評価した（表 3-6）。

表 3-4 大学野球アスリート専門試験採点基準

項目	ベースランニング	遠投	打撃	内野守備	実戦
満点	15	15	15	15	40

出典：https://m.sohu.com/a/216247939_556551 より筆者作成

表 3-5 大学野球アスリート専門試験ベースランニング及び遠投の採点基準

点数	ベースランニングタイム	遠投距離/m
15	15"2 以内	80 以上
14	15"3~15"7	75~79.9
13	15"8~16"2	70~74.9
12	16"3~16"7	65~69.9
11	16"8~17"2	60~64.9
10	17"3~17"7	55~59.9
9	17"8~18"2	50~54.9
8	18"3~18"7	45~49.9
7	18"7~19"2	40~44.9
6	19"3~19"7	35~39.9

出典：https://m.sohu.com/a/216247939_556551 より筆者作成

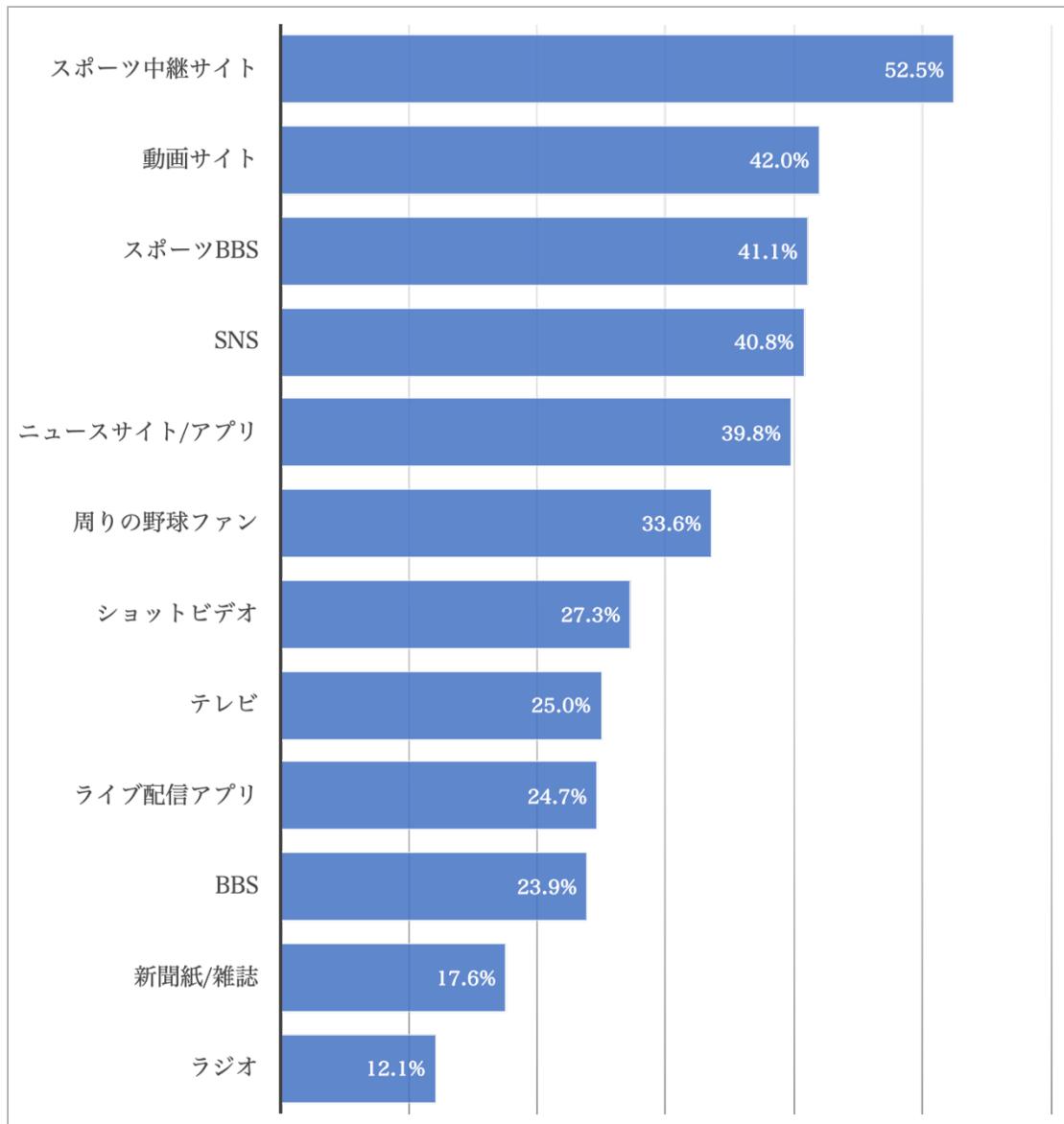
表 3-6 大学野球アスリート専門試験実戦の評価基準

評価	評価基準
A	動作、バランス良くプレーできる。戦術がよく理解し、実戦で運用できる。
B	動作良く、やや合理的な戦術を運用できる。
C	正しい技術を持ち、実戦で戦術が円滑に運用できない。
D	技術の誤りがあり、実戦で戦術が運用できない。

出典：https://m.sohu.com/a/216247939_556551 より筆者作成

第4節 ネット中継

中国における野球の認知度が低いため、地上波の野球中継はなかった。また、メジャーリーグまたは日本のプロ野球を見るには基本的にインターネット中継を利用するしかない。

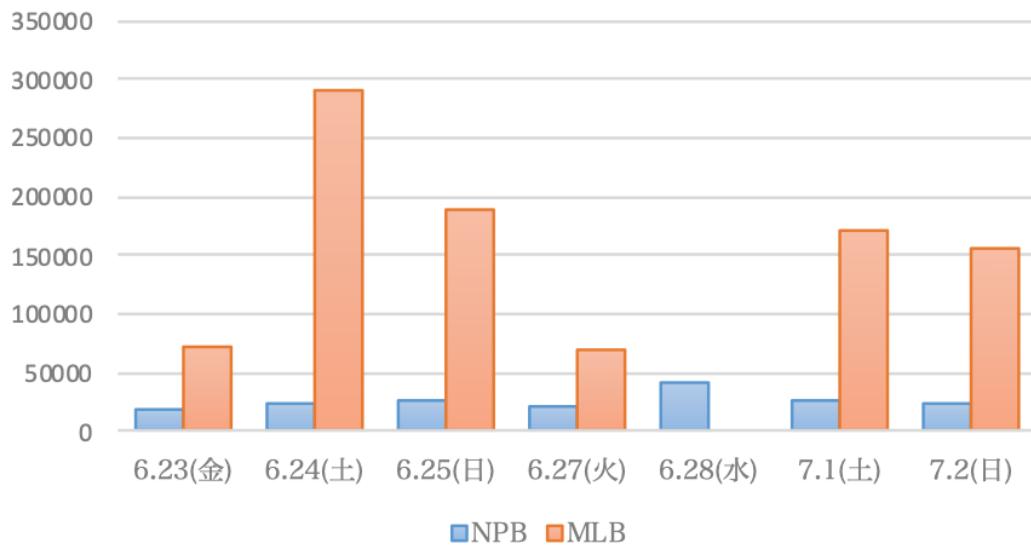


出典：<http://report.iresearch.cn/report/201910/3463.shtml> より筆者作成

図 3-8 2019 年中国野球ファンの情報源

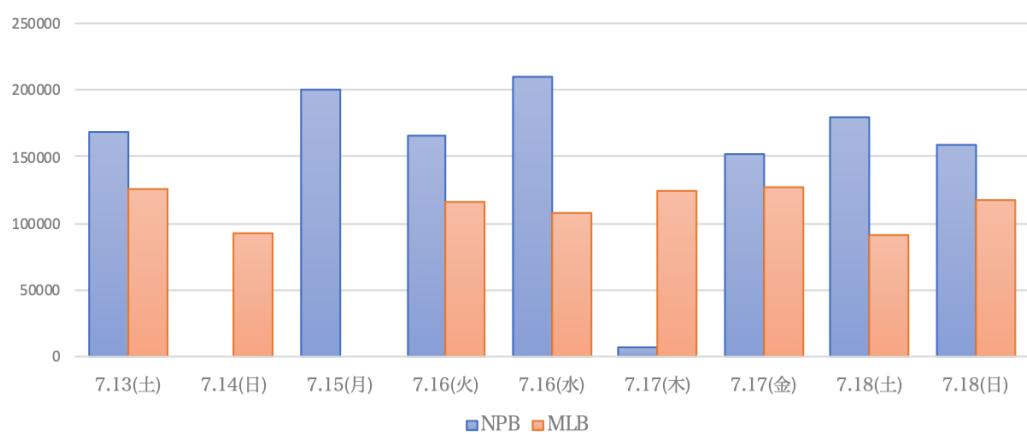
調査により、52.5%の野球ファンはテンセントスポーツのようなスポーツ中継サイトから野球情報を取得し、試合を観戦する。続いては動画サイト、スポーツ BBS や SNS

である。若年層に人気があるショットビデオやライブ配信アプリも情報源の一部だとわかつた。一方、テレビや新聞紙などの伝統的メディアの影響力は落ちていた。



出典：<http://live.qq.com/> より筆者作成

図 3-10 ネット中継視聴者指数 (2017 年 6 月 23 日～7 月 2 日)



出典：<http://live.qq.com/> より筆者作成

図 3-9 ネット中継視聴者指数 (2019 年 7 月 13 日～7 月 18 日)

インターネットによるスポーツの中継が盛んな中国に、MLB のグローバル化の展開につれ、2016 年にインターネット中継サイトの楽視スポーツと 3 年の契約を更新した。試合中継のほか、MLB オフィシャルグッズの販売やオンラインコミュニティーの構築など、中国の野球ファン同士が繋がれる工夫をしている。一方、日本プロ野球はテンセントの傘下にある中継サイトにて放送されている。2017 年 6 月 23 日から 7 月 2 日の視聴者指数は図 3-11 に示されているように、1 位を記録したのは 6 月 24 日であり、その日の試合に最も注目されたのは田中選手とダルビッシュ選手のメジャーリーグ初対決であった。日本人選手の対決は中国にも話題性があることをわかった。

引き続き、テンセントが 2018 年に MLB と契約を結び、テンセントスポーツとその傘下にある中継サイトが MLB のライブ中継を開始した。テンセントが持つ高いユーザー数を生かして、メジャーリーグの認知度を高めることが期待された。2019 年 7 月の視聴者指数から見ると、日本プロ野球は 2 年前を上回り、メジャーリーグを超える平均 17 万だとわかった。

また、テンセントスポーツは海外プロ野球を中継することだけではなく、様々な中国国内の野球大会やイベントの中継を実現した。10 年間開催されている「MLB Play Ball」が国内トップ青少年野球大会に成長したことを受け、少年野球の露出を増やし、全国の注目を集め、若年層に野球を広げる効果を期待し、2018 年にインターネットの中継を始めた。

第5節　　MLB

第1項　MLB の中国事業

表 3-7　MLB の中国事業

2007	MLB 中国オフェスが北京に設立
2007.9	「MLB Play Ball」青少年野球普及プロジェクトが開始
2008.3	MLB 中国シリーズ
2009.5	野球フェス「MLB 野球楽園」が開始
2009.9	MLB DC (無錫) が設立
2010	青少年野球リーグ「MLB Play Ball」が開始
2011.9	MLB DC (常州) が設立
2012	weibo アカウントを開設
2013	楽視スポーツと協力契約を締結
2014.5	MLB DC (南京) が設立
2017.12	MLB スポーツ文化発展 (北京) 株式会社が成立
2018.4	テンセントスポーツと協力契約を締結
2019.4	MLB DC 体験キャンプが開始
2019.8	中国プロリーグ (CNBL) と戦略合作契約を締結

出典：MLB 公式アカウントより筆者作成

MLB が中国に進出したのは 2007 年であり、当時野球をやる人は少なかった。協力できる野球クラブや育成システムは見つからなかったため、MLB は学校野球を入り口に野球普及の事業を開始した。2007 年 9 月に MLB が北京、上海、広州、天津、無錫の 120 小学校に野球普及プロジェクト「MLB Play Ball」を展開した。その後、「Play Ball 指導者育成課程」が開始され、1000 人以上の体育教師や引退したアスリートを野球指導員に養成した。2008 年、MLB 初の中国シリーズが決定され、3 月 15 日、3 月 16 日にロサンゼルス・ドジャースとサンディエゴ・パドレスによるスプリングトレーニングが

北京の五棵松野球場に行われた。しかし、五棵松野球場が 2008 年末に撤去され、中国シリーズも翌年から中止された。

学校に野球普及プロジェクトを展開するほか、MLB が 2009 年から無錫市東北塘中学校、常州市北郊中学校、南京市東山外国語学校の 3 ヶ所に MLB DC (MLB Development Center) を開設した。中国国内の野球選手を育成し、メジャーリーグへの橋をかけた。

2013 年、MLB が楽視スポーツと協力契約を結び、「MLB 野球楽園」をはじめ、様々な野球イベントのインターネット中継を実現した。更に、2018 年にはテンセントスポーツと協力契約を結び、メジャーリーグの中継が開始した。2019 年 4 月、MLB DC 初の体験キャンプが開催され、各地から野球に興味を持つ小学生が体験キャンプにてプロのコーチの指導によりトレーニングされ、野球に対する了解が深めた。

2019 年、MLB が中国プロリーグとの協力合意を達成し、試合管理、リーグ運営、選手移籍やクラブ運営、そして青少年野球プロモーションに渡り、全面的な支援を与えることがわかった。

第2項 MLB DC (MLB Development Center)
MLB は自国の野球ビジネスを拡大させるとともに、世界における野球の普及にも力を入れている。その結果、野球アカデミーやイベントなどは世界中に展開され、アメリカの野球文化を世界中に拡散するほか、カリブ海やヨーロッパの選手が続々メジャーリーグに昇格し、さらなる巨大な市場を切り拓いている。そのグローバル化の展開のもとで、2009 年に MLB が中国で初の MLB DC (MLB Development Center) を設立した。「MLB Play Ball」プロジェクトなどの育成システムから 12 歳以上の学生を募集し、英語や野球教育を提供する上、全額の奨学金を 6 年間負担する。

MLB DC では学生が野球を教われるだけではなく、一般の学校のような大学進学ための知識も習得できる。メジャーリーグを目指す以外の選択肢を学生に提供でき、将来、野球の発展を支える多種多様な職業の人材が確保されていることが MLB による育成システムである。そして、野球ビジネスが未熟な中国野球スポーツマーケティングにして

は、希望を与え、野球と進学が両立できるモデルは、親としての気掛かりも解消させることが考えられる。

2018 年時点で 10 年目に入った MLB DC は 3 都市に増設されたことにより、卒業生が 69 人に達した。そのうち、40 人以上が中国またはアメリカの大学に進学し、2016 年から 2019 年までには 7 人が MLB チームと契約を結んだことがわかった。2016 年に契約した Guiyuan Xu 選手は 2018 年に戦力外となるが、2019 年現在は日本独立リーグの高知ファイティングドッグスと契約し、活動している。ほか 6 人は現在ルーキーリーグに所属し、メジャーリーグに登場することに挑んでいる。（表 3-8）そのうち、Lun Zhao 選手がスカウトに評価され、特にカーブの切れ味が印象的と評した。（図 3-11）従来の国内育成システムと比較すると、MLB DC では英語の授業やアメリカ文化に関する学習会が教育の一環であるため、アメリカへ移る学生たちが早いうちにそこの環境に慣れると見られている。

表 3-8 MLB チームと契約した MLB DC 卒業生

名前 (生年)	ポジション	契約した年	契約チーム	最高レベル	最高レベル出場	現状
Guixuan Xu (1996)	LF	2016	ORI	A(short)	25	戦力外
Haicheng Gong (1998)	P	2018	PIR	A(short)	2	ROK
Justin Qiang (2001)	C	2018	RSX	ROK	17	ROK
Lun Zhao (2001)	P	2018	BRE	ROK	6	ROK
Yang Wang (1999)	C	2019	PHW	ROK	6	ROK
Jian Yi (2001)	P	2019	BRE	ROK	8	ROK
Yongkang Kou (2001)	3B	2019	BRE	ROK	12	ROK

出典：<https://www.milb.com/> より筆者作成

Lun Zhao
Milwaukee Brewers (R) Age: 17 | Bats/Throws: R/R | 5'10" / 180 | P

Birthdate: 8/29/2001 (17 y, 10 m, 14 d) Rule 5 Eligible: Dec'22

Prospects Report	Team Rank: 29	Overall Rank: NA	Reported: 2019 - Updated	ETA: 2024
Fastball	Curveball	Changeup	Command	Future Value
40 / 50	55 / 70	30 / 45	30 / 45	40

12/7/2018 FG FanGraphs Audio Presents: The Untitled McDongenhangen Project, ... by Kiley McDaniel

11/29/2018 FG Top 32 Prospects: Milwaukee Brewers by Eric Longenhangen and Kiley McDaniel

出典：<https://www.milb.com/> より筆者作成

図 3-11 Lun Zhao 選手のスカウティングレポート

第4章 考察

第1節 中国野球界の発展

中国野球界の発展を ①イベント ②リーグ ③大学野球 ④ネット配信 ⑤MLB との関係の 5つの視点で調べた主な結果を表 4-1 にまとめた

表 4-1 中国野球界の今後の発展に寄与すると考えられる主な取り組み

項目	主な内容
イベント	2009 年と比べると、2020 年に開催予定のメイン野球イベントが倍増
プロリーグ	2019 年プロ化改革
大学野球	2017 年、野球が体育総局の「スポーツエンターテインメントプロジェクト」の対象となる。
中継	2016 年に MLB、NPB のネット配信開始
MLB DC	MLB DC が 2009 年中国に設立

第1項 イベント

表 4-2 2009 年に開催したメイン野球イベント

イベント	開催期間
全国野球トーナメント及び全国運動会予選	4月6日～4月15日
中国野球リーグ	5月～7月
全国チャイルド野球トーナメント	7月～8月
全国少年野球トーナメント	7月～8月
全国青少年野球トーナメント	8月
全国大学生野球リーグ	7月下旬～8月上旬
全国青年野球リーグ	8月下旬
全国アマチュア野球オープン	7月～8月
全国運動会野球ファイナル	10月

出典：中国野球協会ホームページより筆者作成

この 10 年間、学校野球の発展と MLB により普及活動の展開につれ、メイン野球イベントが倍増し、学生から社会人、多くの人が野球に触れる機会が増えていた。「野球」というスポーツすら知らなかつた十年前に比べると、野球が学校やスポーツクラブに浸透し、より身近いスポーツに変化した。これからいっそう野球イベントを盛り上げるために、野球場をはじめる基礎施設の増設、そしてイベント開催期間の延長やマスメディアを通してイベントの楽しさを発信することが重要だと考えている。

第2項 リーグ

中国野球リーグは 2002 年に発足し、スポンサーの撤退や代表選手の遠征により 2 回中止した。しかし、2019 年にはプロ化改革を迎え、リーグの商業化も当時に行われている。リーグのプロ化の進行につれ、適切な運営管理システムが生み出せると見込んでいる。それから、ブランド力の向上や観戦人口の増加なども期待できると考えられている。競技力の向上に関しては育成システムから優秀な選手を招致し、より高強度、多試合のレギュラーシーズンを通じて、リーグ全体的な競技レベルの向上を実現すること、

そして、他国の野球選手を招く外国人登録制度も可能である。最終的に、代表チームに優秀な選手を輸出することがプロリーグの目標だと考えている。

第3項 大学野球

中国の大学野球の活動歴は長い、2004 年には統括組織が結成し、大学野球リーグが発足した。更に、2017 年の大学リーグの開催地が体育総局「スポーツエンターテインメントプロジェクト」により選ばれた中山市に移行した。また、2017 年には中台学生野球交流戦が開催し始めた。大学野球イベントの盛り上がりや実力の向上は期待することができると考えている。一方、全国の大学数から見ると、野球チームがある大学は割と少ないであり、それから、普遍的に野球場がない中国の大学に野球チームを増やす、そして大学生が参加できる野球大会を充実させるのが今後の課題と考えている。

第4項 ネット配信

2018 年、スポーツイベントの放送権収入は初めてチケット収入を越えた¹²。プロリーグが発展初期である中国野球では、インターネット中継は世界中のトップリーグを触れる扉であり、スポーツ中継サイトも中国の野球ファンの重要な情報源とし、野球イベントの広がりやこれから始まる野球 e スポーツリーグの中継により、中国における野球市場の拡大を期待されている。

また、数多くの視聴者が日本プロ野球を観戦するため、中国人選手が日本のプロ球団に加入できるような取り組みや日本の球団が中国にファンクラブの創立及び中国におけるビジネス事業の展開を積極的に進めば新たなビジネスモデルを創出できると考えている。

¹² <https://www.pwccn.com/zh/industries/government/sports-survey-2018.pdf> (閲覧日：2020 年 1 月 2 日)

第5項　MLB

MLB が 2007 年に中国進出してからの 12 年間、若手選手の育成、学校野球及び民間の普及、そしてプロリーグの支援という 3 つの営業事業が進んでいた。特に若手選手育成機構の MLB DC は多くの選手を育成し、代表チームの競技レベルも上がってきた。まだ、300 店舗以上の MLB 中国販売代理店は全国中に開かれ、会員数が 10000 人を超えた。2016 年の「双 11」という販促イベントにニューヨークヤンキースの服装がスポーツ服装のカテゴリーにて販売数第 1 位であった¹³。営業利益の拡大につれ、MLB 中国事業は更に加速することが予想されている。

第2節　　中国野球界のトリプルミッション

それぞれの発展を踏まえ、今後の中国の発展に関してトリプルミッションの概念を用いてまとめた。

第1項　普及

21 世紀に入り、中国野球リーグの発足をはじめ、中国における野球イベントが次々と開催された。2009 年と比べると、2020 年に開催予定のメイン野球イベントが倍増し、試合期間も 2 月から 12 月までの 11 月間に増加した。U9、U10、U12、U15、U18 など年齢別開催する大会や台湾など中国大陸以外の地域との交流も進んでいた。この多くの野球イベントの開催することにより、

スポーツを発展させるには選手だけでなく、指導者や審判、スポンサーなど、一つの職業に限らず重要である。中国野球においては 1970 年代再開してから歴史が浅いため、野球がカバーする範囲は未だに狭いであり、プロリーグや大学野球大会の発足から 20 年も経ってないので、野球産業拡大するための人材は不足の状況となっているが、近年

¹³ http://www.lanxiongsports.com/search/index.html?c=search&a=index&_keyword=mlb （閲覧日：2020 年 1 月 2 日）

では野球の経験者が次々と社会に入り、その一部の人が野球に関する仕事に務めると推測されている。

筆者では大学時代、社会人の卒業生が大学に戻って野球をする姿をよく目に入り、子供を連れて親子で野球をプレーするのは珍しくない。野球の魅力を感じたからこそ自分の子供もそれを感じさせたいという気持ちは子供達にとって野球に触れるきっかけになる。これを細胞分裂のように広がり続けると野球に関する関連産業は望む方向に進めると予想されている。

要するには学校野球や民間野球そしてプロリーグが地道に未経験者を対象とし、野球を触れる機会を作ることが大事である。また、経験者に野球の魅力をいつそう掘り下げて体感させるのが土台作りとして肝心だと考えている。

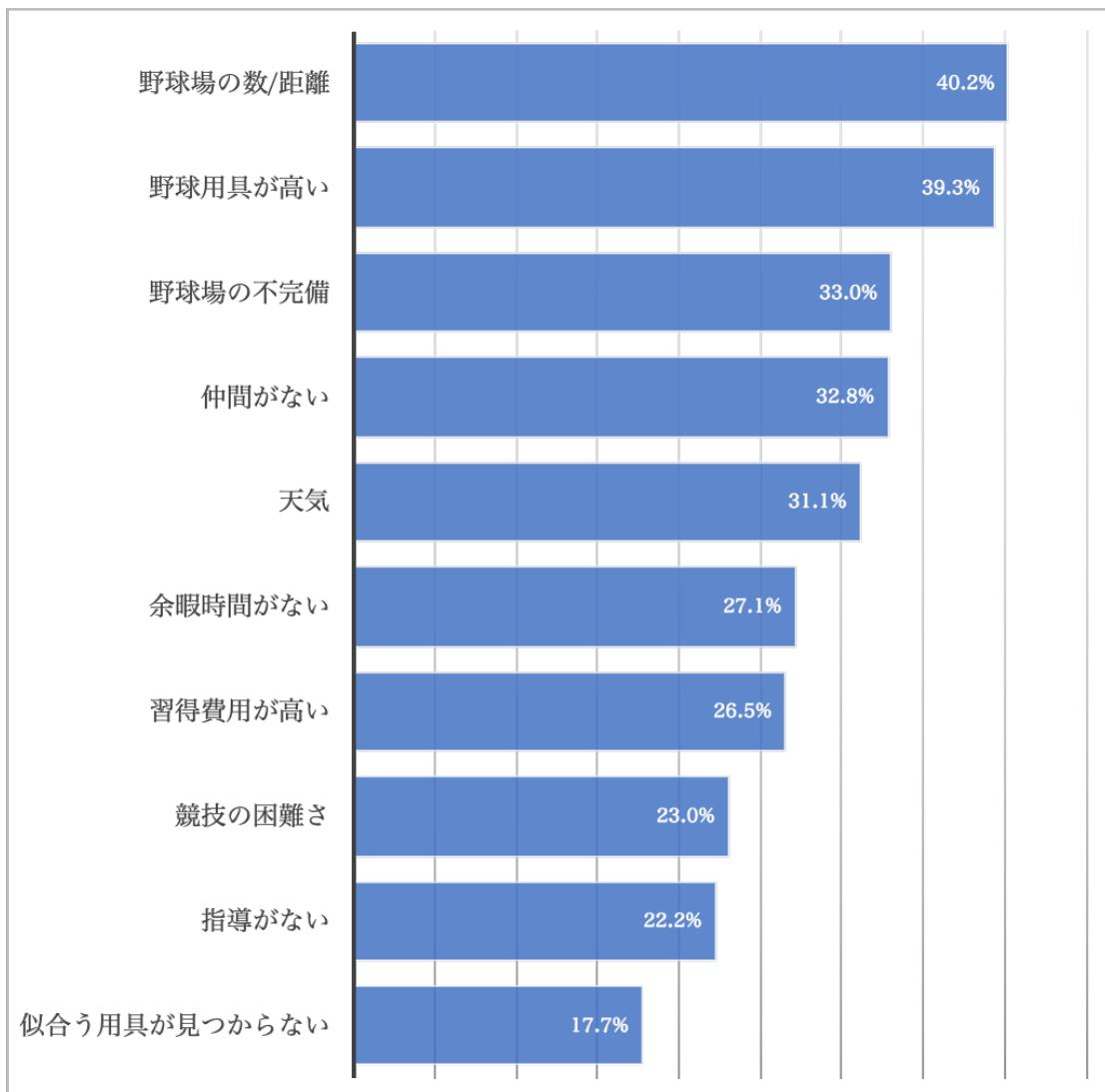


図 4-1 野球をプレーできない要因

一方、野球をする制限要因に関しては、野球場の不足・長距離の移動が最も多い。そのほか、野球用具の高い、野球場の不完備や野球仲間がないことなども野球活動を妨害する要因と見られている。

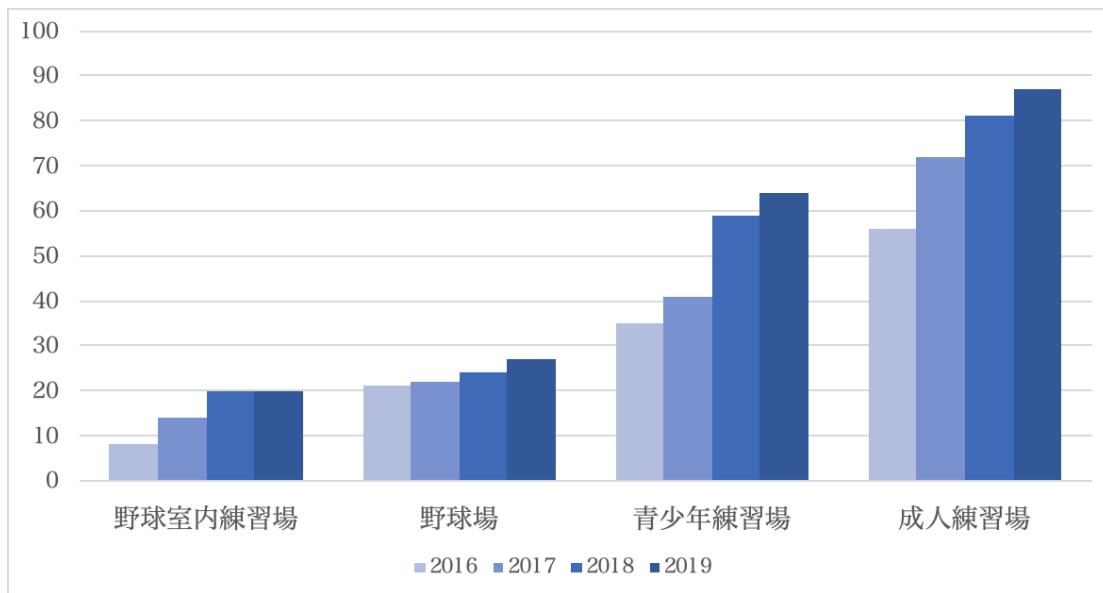


図 4-2 2016 年~2019 年野球場/練習場の数

野球場の不足に関しては、2016 年に公表された「野球発展中長期計画書」の刺激で、中国国内における野球場の建設が加速していた。2019 年に野球室内練習場が 20 施設、野球場が 27 施設、青少年野球練習場が 64 施設、成人野球練習場が 87 施設存在していた。また、野球ファンを集める野球バーやバッティングセンターも近年立ち上げている。野球をプレーする場所が多様化していくと見られている。そして、野球施設の増加することにより、野球場の不完備や天気の影響は改善されると予想され、このような施設を中心とし、地域の野球ファンや指導者を引き寄せる効果が期待することができる。

第2項 強化

中国代表は長年アジアランクイング 4 位を占めたにも関わらず、アジアトップ 3 の日本、韓国、台湾に比べると、大きな差がある。しかし、中国野球リーグのプロ化改革、学生野球の展開や MLB が野球イベントを開催することにつれ、中国代表の成績を上げる余地が多くと見られている。

そして 2018 年、2020 東京五輪の出場権を得るため、中国野球協会がリードし、首鋼集団のサポートの下、中国代表チームがアメリカ独立リーグのアメリカン・アソシエーションに挑戦することが決定した。そのリーグがアメリカ、カナダからの 12 チーム

を構成され、北地方、中地方、南地方に分けている。約 40 人の中国代表が加入するのは南地方のテキサス・エアーホッグスであり、外国人選手と混ぜてレギュラーシーズンに参戦した。2018 シーズンは 25 勝 75 敗の成績を収め、そのうち、中国代表の個人成績は図 4-1 にある通り、野手はチーム全体打席数の 53%に占めるながら、安打数や打点が 50%にも達していない、さらに、37 本のホームランのうち、中国選手が打ったのは僅か 2 本だった。良い成績ではなかったが、選手たちがその 1 シーズン、100 試合に出場すること、そしてアメリカ人のコーチ陣の指導により、体の管理や野球の技術は鍛えられた¹⁴。

その翌年の 2019 年、中国代表がアメリカン・アソシエーションに参戦する二年目、図 4-1 にある通り、打席数の割合は去年に維持し、得点、安打数、ホームラン数、打点、盗塁数の割合は全部上昇した。投手陣においては先発からリリーフに転向する傾向が見られる。（表 4-3、表 4-4）

その結果、2019 年 10 月に台湾で行われたアジア選手権大会に参加する中国代表チームがオープニングラウンドと 3 位決定戦に 2 度と韓国を破り、大会 3 位の成績で来年開催する東京五輪の敗者復活戦の出場権を獲得した。引き続き、中国選手は積極的に海外の高いレベルのリーグに挑戦することを推奨し、競技力を向上させるため、中国野球協会は有望選手の海外進出の意向を支援すべきだと考えている。

¹⁴ <http://sports.people.com.cn/GB/n1/2018/0808/c412458-30216299.html> (閲覧日：2020 年 1 月 2 日)

表 4-3 アメリカ独立リーグに参加する中国人選手の成績（投手）

	人数	IP	ER	BB	SO	W	L	SV
中国人投手/ 全チーム 2018	20/36	487/ 862.1	323/ 596	301/ 531	309/ 647	12/ 25	38/ 74	0/ 18
割合	56%	56%	54%	57%	48%	48%	51%	0%
中国人投手/ 全チーム 2019	9/24	208.1/ 703.1	125/ 457	120/ 345	124/ 546	2/ 22	14/ 60	2/ 9
割合	38%	30%	27%	35%	23%	9%	23%	22%

表 4-4 アメリカ独立リーグに参加する中国人選手の成績（野手）

	人数	AVG	AB	R	H	HR	RBI	SO	SB	CS	E
中国人 野手/ 全チー ム 2018	27/ 35	0.187 /0.23 4	1756/ 3333	111/ 307	349/ 781	2/ 37	88/ 278	451/ 838	20/ 67	15/ 26	69/ 110
割合	77%		53%	36%	45%	5%	32%	54%	30%	58%	63%
中国人 野手/ 全チー ム 2019	14/ 23	0.189 /0.23 9	1419/ 2687	126/ 300	311/ 643	4/ 25	108/ 252	393/ 727	30/ 77	22/ 44	65/ 92
割合	61%		53%	42%	48%	16%	43%	54%	39%	50%	71%

出典：<http://www.airhogsbaseball.com/home/> より筆者作成

第3項 資金

2016 年に中国のスポーツ中継サイトはメジャーリーグの国内放送権を獲得し、既に配信されている日本プロ野球を加え、中国の野球観戦者は手軽に世界トップの野球リーグを見ることができ、スポーツ中継サイトも頻繁に利用されているという優勢を持ち、情報発信の機能を担っている。それに従って、国内に開催されている様々な野球イベン

トは中継サイトを生かし、全国中に配信することはそのイベントの魅力を広がるだけではなく、野球の普及にも積極的な影響があると考えている。

また、21世紀に入り、インターネットの発展につれ、電子ゲームは人々の生活に浸透され、普及している。近年ではeスポーツの産業化が急速に拡大していた。2018年中國eスポーツ産業大会によると、中国のeスポーツが形成してから20年、2017年に中国のeスポーツ産業が爆発的な発展を迎えた。市場規模が650億元（約1兆円）を超えて、2019年には990億元（約1.5兆円）に達すると予想されている¹⁵。

そのeスポーツの力は今、野球にも影響が出ている。MLBが世界初の野球eスポーツリーグを中国7都市に開設することが7月に分かった¹⁶。メジャーリーグの野球ファンが集結されているアメリカではなく、野球新興国の中間に開催するのはこの巨大なeスポーツ市場を狙っているのではないかと考えている。一方、同じアメリカ4大リーグのNBAが2017年にeスポーツリーグを設立、優勝賞金は30万ドルを設け、今は21チームが加入されており、9つのスポンサーがついている。また、NHLでは2018年からワールドホッケーeスポーツリーグを開催し、北米エリアスポンサーのホンダをはじめ7つのスポンサーがついている。

MLBが中国で野球eスポーツリーグを開催することにより、中国eスポーツ競技を多様化させながら、野球市場の拡大にもつながると考えられる。

第4項 理念

中国に野球が伝來したのはほぼ日本と同じ、19世紀後半である。しかし、100年が経過した現在、両者には雲泥の差がついている。その直接的な原因は中国国内50における50年近くの混乱と文化大革命と見られているが、当時のスポーツに関する考え方も要因の一つだと考えられる。

¹⁵ http://cn.chinadaily.com.cn/2018-05/30/content_36300320.htm (閲覧日: 2020年1月2日)
¹⁶ <https://esportsinsider.com/2019/07/mlb-china-esports-league/> (閲覧日: 2020年1月2日)

野球が伝來した清国末期、社会的動乱があちこちで発生し、人口の急速増加につれ、食糧不足も深刻化、人々は封建的な思想を未だ抱いていた。その現状を打破するため、国民素質（社会常識、知識量）または体質の向上が重要だと一部の官僚に認識された。こうした背景から、西洋から伝わった野球とは「スポーツ」の野球ではなく、「強国」という機能を持つ野球であった。それは現在のスポーツのあり方と異なり、娯楽でもなく、競技でもなかった。そのため、野球が伝わったとはいえ、人々の生活には浸透しなかつた。

女性はさらにスポーツと無縁であった。20世紀に入り、革命家及び女性解放運動の先駆の秋瑾氏が女性は自立すべきだと提唱し、女子体育会を創立した。その後、「纏足」という1000年近く存在する風習が1920年代までに徹底的に禁止され、家に縛られた女性によくやくスポーツをする機会が増えてきた。

1910年代に中国のスポーツ活動は主に学校と教会にて行われ、競技のスポーツという理念が拡散されてきた。1915年に上海で開かれた第二回極東選手権大会では野球が実施競技に含まれており、オリンピックの参加も検討されていた。しかし、1992年まで野球は正式種目になっておらず、競技レベルの向上が重視されていなかったと考えられる。

国はスポーツの重要性を20世紀から認識していたものの、海外資本主義の影響力はまだ大きかった。野球のような競技性が高いスポーツをする余暇はないと見られ、民間では体操や陸上のような直接体を鍛えられるスポーツが主流であった。それがなぜ軍隊で流行っている野球が全国においては普及しなかった理由だと考えられる。

特に1949年に中華人民共和国が成立した以来、中米関係が緊張しつつあり、野球に対する批判の声も絶えず上がっていた。アメリカの野球は野球連盟の独占的支配により、単なるスポーツではなく金を産出する道具となっており、アスリートはただリーグから搾取され、使えなかつたら捨てられる、と指摘された¹⁷。

¹⁷中国の主流メディア「人民日報」に載る記事 「壟斷資本控制下的棒球業」 楽山 1957.10.31.

上述の原因により、競技スポーツでもなく、民間の娯楽にもなれなかつた野球は、文化大革命により一掃された。

しかし、全てのスポーツが文化大革命により否定された訳ではなく、逆にスポーツはソフトパワーになり、国際関係を緩和させるために大きく貢献した。1970年代に入り、中ソ対立が深刻化する一方、他の資本主義国家との対立も改善されていなかつた。しかし、アメリカはベトナム戦争で中米関係の緩和を求めた。中国政府がそれを察し、1971年に日本で開催された卓球世界選手権大会をきっかけとしてアメリカの卓球チームを北京に招待した。卓球親善試合のほか、万里の長城や清華大学の観覧などが行われた。直後、ニクソン大統領が中米関係正常化の意思を示し、翌年には中米関係正常化を導くメッセージとして「中米共同コミュニケーション」が公表された。その時期、スポーツは国際政治と言つた「外交舞台」で活躍した。

野球もその「外交舞台」に何度も登場した。文化大革命を爆発する前に、キューバ革命によりキューバとアメリカの外交が断絶した一方、社会主义国同士として中国政府がキューバ政権を認め、お互いの交流活動も推進された。その交流活動の中、キューバで行われた野球の観戦に招待され、キューバ人の野球に対する熱情が特に訪問代表団の印象に残つた。その後、キューバ代表団が訪中し、コーチの育成支援や選手指導を行つた。また、文化大革命後、野球活動が各地で再開し、中日関係が正常化するにつれ、野球はお互いに好意を表す手段となつた。

中国の野球は政治に左右され一度消滅したが、現在の中国は平和的な発展を追求している。2008年北京オリンピックのようなメガスポーツイベントは言語や人種、性別の壁を越えて世界中の人を繋がる力を持っており、お互いに理解を深める効果があると見られている。特に、野球が盛んなアメリカ、日本、韓国に対しては、国事であれ、民間交流であれ、野球が相互の誤解を打ち破ると考えており、中国の魅力を世界中に発信することを期待している。

第 5 章 結論

本研究では中国野球の歴史を回顧し、今日の中国野球を支えてきた野球イベント野球リーグ、大学野球、ネット中継そして MLB DC の現状を整理した。初期の中国野球リーグが競技人口不足とスポンサー招致困難のゆえ、2 度も中止してしまった。しかし、近年では大学野球の進展と MLB の協力の下、中国の野球産業が拡大し、リーグもプロ化改革を迎えた。さらに、野球経験者が社会に出ていくにつれ、野球産業の好循環を促進すると見られた。これから、学校においての野球の普及、プロリーグの商業化改革、メジャーリーグや日本プロ野球との連携を進めると、中国野球産業の拡大につながると結論づけた。

謝辞

本研究を行うに当たり、暖かく且つユーモア溢れるご指導くださった平田竹男教授に心より深く感謝致します。

そして、副査の中村好男先生、児玉ゆう子先生、畔蒜洋平先生にも深く感謝申し上げます。また、日下部大次郎先生をはじめ、早稲田大学スポーツ科学研究科でご指導くださった先生方にこの場をお借りしてお礼を申し上げます。

共に勉学に勤しんだ平田研究室学部ゼミの皆様、社会人修士の皆様、2年コースの高鳴晋氏、市川孝氏をはじめとする後輩、そして、同期生として2年間苦楽を共にした荒木優麻氏、三好優太朗氏、大杉柊平氏には大変お世話になりました。心より感謝の意を申し上げます。

最後に、全面的に支援してもらった家族に、心から感謝します。

参考文献

- 平田竹男、『スポーツビジネス・最強の教科書（第2版）』東洋経済新報社、2017
- 石原豊一、「中国プロ野球の可能性—北京五輪会場の観衆への調査から—」、スポーツ産業学研究、Vol.20、No.1、81~90、2010
- 成都体育学院体育史研究室、『中国近代体育史簡編』、人民体育出版社、1981
- 陳頤明、梁友德、杜克和、『中国棒球運動史』、武漢出版社、1999
- 何叙、「中国近現代体育思想的伝承与演变」、人民出版社、2013
- 樂山、「壟斷資本控制下的棒球業」、人民日報、1957年10月31日
- Sha Qingqing. Play baseball in New China: A sport's situation changes and its multiple roles, CPC History Studies, Vol.188, No.2, 2014
- Guo Rong. Present situation and influential factors analysis on college baseball clubs development, Bulletin of Sport Science & Technology, Vol.26, No.9, 2018
- Lu Huang, Fang Baoqi. Ponder and Consideration on the Course of Professionally of the Chinese ten Years of Occupation League Baseball, Contemporary Sports Technology, Vol.7, No.5, 2017
- http://www.gov.cn/zhengce/2019-09/03/content_5426712.html (閲覧日:2020年1月2日)
- <http://www.stats.gov.cn/tjsj/ndsj/> (閲覧日:2020年1月2日)
- <http://baseball.sport.org.cn/> (閲覧日:2020年1月2日)
- <http://baseball.sport.org.cn/xxl/2019/1031/299566.html> (閲覧日:2020年1月2日)
- <https://rankings.wbsc.org/zh/list/baseball/men> (閲覧日:2020年1月2日)
- <http://report.iresearch.cn/report/201910/3463.shtml> (閲覧日:2020年1月2日)
- <http://sports.sina.com.cn/o/2002-04-17/17262542.shtml> (閲覧日:2020年1月2日)
- http://www.sohu.com/a/211096727_727384 (閲覧日:2020年1月2日)
- https://m.sohu.com/a/216247939_556551 (閲覧日:2020年1月2日)
- <https://kbs.sports.qq.com/#hot> (閲覧日:2020年1月2日)

<https://www.milb.com/> (閲覧日 : 2020 年 1 月 2 日)

『國務院關於加快發展體育產業促進體育消費的若干意見』

http://www.gov.cn/zhengce/content/2014-10/20/content_9152.htm

『中國棒球中長期發展規劃』

<http://images.sport.org.cn/File/2015/12/30/1615569420.pdf>